

成人看護学実習 I ・ II

実習目的と目標

成人看護学実習目的		
<p>1. 成人看護学実習Ⅰと成人看護学実習Ⅱを通して、成人期にある患者とその家族のもつ健康問題を全人的に理解し、健康の段階(急性期・慢性期・回復期・(リハビリ期)・終末期)に応じた健康の最良の状態を生み出すための看護を学ぶ。「全人的に理解する」とは、患者の身体的・精神的・社会的・霊的側面を考慮し、患者の健康状態に影響を及ぼす多面的な問題を理解することを意味する。</p> <p>2. 看護過程の展開を通して、根拠に基づいた看護の実践ができる基礎能力を養う。</p> <p>3. 人間の尊厳および人権の擁護の重要性を理解し、看護者として倫理的に判断し、行動できる基礎能力を養う。</p>		
成人看護学実習Ⅰ(急性期)目的 3単位	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)目的 3単位	
<p>1) 周手術期を通して健康状態が急激に変化する患者とその家族のもつ健康問題を総合的(身体的・精神的・社会的側面から全体像を捉える)に理解する。</p> <p>2) 手術療法が患者・家族に及ぼす影響について予測し、患者が手術前から回復期にかけての合併症予防や健康回復に向けて主体的に取り組めるような看護の基礎能力を養う。</p>	<p>1) 慢性の疾患を有する患者とその家族のもつ健康問題を総合的(身体的・精神的・社会的側面から全体像を捉える)に理解する。</p> <p>2) 慢性の疾患を有する患者とその家族が主体的に病気を管理し、生活の再調整ができるような看護の基礎能力を養う。</p>	
成人看護学実習Ⅰ各段階の目標	学習段階	成人看護学実習Ⅱ各段階の目標
<ul style="list-style-type: none"> 病態、検査、治療、経過、発達課題について患者状態を把握し、患者の病態、治療、手術後に予測される問題について理解する。 	患者の病態治療の理解	<ul style="list-style-type: none"> 慢性の疾患は、おもに生活習慣との関係から徐々に健康を障害していく。生活習慣は環境(自然・社会・文化)の影響を強く受けている。慢性の疾患を有する患者の病態を環境との相互作用の観点から理解する。
<ul style="list-style-type: none"> 患者情報を系統的に収集し、手術が患者の心身にどのような影響を及ぼすかを予測して健康問題を明確化し看護計画を立案する。最善の状態です術が受けられるように準備を整える。 	情報収集看護問題抽出	<ul style="list-style-type: none"> 患者情報を系統的に収集し、慢性の疾患を有する患者の健康障害の程度やセルフケア能力をアセスメントして看護問題を明確化する。
<ul style="list-style-type: none"> 手術後の危機状態にある患者に対して生命の維持、安全・安楽の確保、精神的支援のための看護を計画立案する。 	看護計画立案	<ul style="list-style-type: none"> 患者と家族の強み(主体的に病気を管理できるようなポジティブな面)を生かした看護計画を立案する。
<ul style="list-style-type: none"> 手術後の危機状態にある患者に対して生命の維持、安全・安楽への看護を実践する。 回復期における患者の状態を理解し、早期離床、セルフケアに必要な看護を実践する。 	看護の実践	<ul style="list-style-type: none"> 患者の安全と治療的環境を維持し、立案した計画に基づいて、家族にも配慮しながら看護を実践する。
<ul style="list-style-type: none"> 退院後の生活を予測して残存機能を最大限に活用した自立への援助と家族を含めた指導を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 退院後の生活を予測して在宅療養に必要なリハビリテーションを理解できる。また社会生活に適応するために患者が主体的に自己管理できるよう家族を含めた援助を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 周手術期の各段階において、患者が治療や健康の回復に向けて主体的に取り組めるような看護過程が展開できたか評価する。 	評価	<ul style="list-style-type: none"> 慢性の疾患を有する患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか評価する。
<ul style="list-style-type: none"> 看護者として対象者への倫理的配慮ができ、医療チームの一員としての自己の役割を自覚した行動がとれる。 	倫理的配慮医療チームの一員としての行動	<ul style="list-style-type: none"> 看護者として対象者への倫理的配慮ができ、医療チームの一員として自己の役割を自覚した行動がとれる。

実習期間および実習時間

1. 期間：2019年8月～2020年1月
2. 時間：8:30～15:30(実習施設により異なる)

実習施設

熊本医療センター、熊本市立植木病院、熊本赤十字病院、熊本大学病院、熊本労災病院
公立玉名中央病院、済生会熊本病院 (50音順)

実習方法

1. オリエンテーション
 - 1) 学内オリエンテーション
実習施設と病棟の特徴(手術室、集中治療室の看護を含む)、実習期間と時間・実習方法・実習記録等について理解する。担当教員から提示された受け持ち患者の情報を、様式1にそって事前学習を行い実習に臨む。事前学習の内容は、臨地実習1日目に担当教員に提出をする。
 - 2) 臨地オリエンテーション
看護部組織、看護部理念について理解し、実習施設と病棟の特徴(手術室、集中治療室の看護を含む)の理解を深める。
2. 受け持ち患者選定
教員と臨地実習指導者の討議のうえ決定する(成人看護学実習Ⅰでは周手術期の患者を受け持つ)。
3. 看護カンファレンス(毎日・中間・最終)
 - 1) 学生、教員、臨地実習指導者参加のもと看護カンファレンスを毎日約30分実施する。
 - 2) 中間カンファレンスと最終カンファレンスは各々原則1回、約60分実施する。
4. 成人看護学実習のまとめ
受け持ち患者の看護過程を振り返り「看護の実際と評価(様式7)」を作成する。
5. 臨地実習レポートの提出・他
 - 1) 記録用紙は表紙、様式8(評価表)、様式2(フェイスシート)、様式7(看護の実際と評価)、様式3～6、添付資料の順に綴じる。(様式1は提出用臨地実習レポートに綴じ込み不要)
 - 2) 臨地実習レポートの提出は、第3週金曜日の13時までに担当教員へ提出する。
 - 3) 成人看護学実習Ⅰは、手術室における看護も含む。
 - 4) 手術患者を受け持って看護を学ぶ場合、時間の別途指示があり得る(実習は17時迄)。

6. 週間実習計画

成人看護学実習Ⅰ(急性期)		臨地実習内容	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	
金	直前オリエンテーション 事前学習の確認			金
月	臨地実習開始	【第1週】 情報収集 アセスメント 看護問題抽出 看護計画立案	月	臨地実習開始
火			火	
水			水	
木			木	
金			金	
月	中間カンファレンス	【第2週】 看護介入 評価 計画の追加・ 修正	月	中間カンファレンス
火			火	
水			水	
木			木	
金			金	
月		【第3週】 要約	月	
火	最終カンファレンス		火	最終カンファレンス
水	臨地実習終了		水	臨地実習終了
木	記録整理		木	記録整理
金	記録まとめ・13時記録提出		金	記録まとめ・13時記録提出

注) ①臨地実習中の学内日は原則1週間に1回とし、指導者・教員との協議のうえ決定する。

②中間・最終カンファレンス日は、指導者・教員との協議のうえ変更する。

実習評価

担当教員と臨地実習指導者によって成人看護学実習評価表(様式8-1、様式8-2)に基づき評価される。成人看護学実習Ⅰおよび成人看護学実習Ⅱ、各々60点以上を合格として科目責任者が単位を認定する。

実習記録：次ページを参照

表紙

様式1：病態および検査・治療、看護

様式2：フェイスシート

様式3：アセスメントシート

様式4：看護問題整理シート

様式5：看護計画

様式6：実習記録

様式7：看護の実際と評価

様式8-1：成人看護学実習Ⅰ(急性期)評価表

様式8-2：成人看護学実習Ⅱ(慢性期)評価表

成人看護学実習（Ⅰ・Ⅱ）

実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
大学名	九州看護福祉大学 看護福祉学部 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

病態および検査・治療、看護

学籍番号：

氏名：

<病態および検査・治療>

* 既往症に関する病態

* 現疾患に関する病態および検査・治療

* 成人看護学実習 I（急性期）の場合は、麻酔法も学習すること

<各疾患の一般的な看護>

フェイスシート

学籍番号：

受持期間： 年 月 日 ～ 月 日

氏名：

患者：A氏 (2人目以降アルファベット順)	歳代	男・女	<特記事項> *アレルギー： *感染： *血液型 () Rh () 輸血歴 (有・無)
<医学診断> <医師の治療方針>		<患者への説明内容> <キーパーソンへの説明内容> キーパーソン ()	
<家族構成・家族歴>		社会資源の活用(介護保険の認定等)	
<既往歴> <現病歴> <受持ち時の状態>			

アセスメントシート

患者：A氏

学籍番号：

氏名：

項目	日付	S情報	O情報	アセスメント	看護問題

看護問題整理シート

患者：A氏

学籍番号：

氏名：

各項目の看護問題	看護問題の整理	統合された看護問題	優先順位

看 護 計 画

患者：A氏

計画立案日： 年 月 日

学籍番号：

氏名：

《看護問題》

<看護目標>

[看護計画]

*目標ごとに記載（ex：目標1に対する計画）

*追加や修正はその都度計画中に入れ込み、日付を（ ）書きする

実 習 記 録

実習日： 年 月 日 ()

学籍番号 氏名 本日の体温 °C担当Ns. 看護師

【今日の实習目標】

【実習計画】

【看護の実際】

<評価>

記載上の注意

1. 看護の実際は 1 つの場面・事象ごとに経時的に記載する。看護の実際には必ず結果を書く。評価は、看護の実際ごとに行う。
2. 用紙はA4サイズ、余白は上下と左は 30mm、右 20mmとする。
3. 文字は明朝体、10.5ポイント、40字×40字とする。
4. 成人看護学実習 I（急性期）の場合は、実習日(曜日)の後に「術後○日目」を記入する。
5. 看護師および担当教員からの指導内容を記載する。その学びを当日や次の日の実習に活かす。

看護の実際と評価

患者：A氏

学籍番号：

学生氏名：

記載内容

看護問題と看護目標ごとに看護の実際と評価を記述し、最後に実習で学んだことや、今後の課題を述べる。

成人看護学実習 I (急性期) 評価表

実習期間： 年 月 日 ～ 月 日

学籍番号： 学生氏名：

項目	評価内容	配点	教員	臨地指導者	自己評点	自己評価の根拠 (実習要項の実習目標に照らし合わせて目標が達成できたか評価する)
情報収集と看護上の問題の明確化	①患者の病態・治療が理解できる。	10				
	②患者の家族・職場・地域における役割を明らかにするとともに疾患を抱えることによって、これらにどのように影響を及ぼしているのか理解できる。	4				
	③手術療法が患者にどのような影響を与えるかを予測することができる。	4				
	④看護に必要な情報をゴードンの11パターンを使って系統的に収集できる。	4				
	⑤患者のセルフケア能力を明らかにできる。	4				
	⑥患者の退院後を視野に入れた解釈・分析ができ、生活指導に繋げられる。	4				
	⑦相互のデータの関係性から患者の全体像をとらえ問題点を明らかにできる。	4				
	⑧患者とその家族の問題点を判断し、適切な看護問題を表現することができる。	4				
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。	4				
計画立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。	3				
	②科学的根拠に基づき患者の個性性を考慮した看護計画を立案できる。	3				
	③現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。	3				
看護の実践	①患者の安全と治療環境を維持した援助ができる。	3				
	②立案した計画に基づいて看護実践できる。	3				
	③患者の苦痛を軽減し、安楽が得られる看護が実践できる。	3				
	④家族に配慮しながら援助できる。	3				
	⑤退院後の社会復帰に向けたADL拡大と自立への援助ができる。	3				
	⑥患者のセルフケア能力や病状・障害に応じ、チーム医療の役割や社会資源の活用が理解できる。	3				
	⑦患者が生活全般を自己管理できるように家族を含めての教育を計画し実施できる。	3				
評価	①毎日の経過記録のなかで評価ができる。	3				
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。	3				
	③患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか客観的に評価できる。	3				
倫理的配慮 医療チーム一員としての行動	①患者・家族のプライバシーを守り、気持ちや感情を理解できる。	2				
	②学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。	2				
	③カンファレンスに参画し、考えを発言できる。	2				
	④記録用紙は専門用語を用いて正確に記述し、期限を厳守して提出できる。	4				
	⑤患者・家族および医療者とのコミュニケーションを図れる。	2				
	⑥チーム医療の中における自己の役割を認識し、報告・連絡・相談ができる。	5				
	⑦自己の健康管理ができる。	2				
評点	総合評点	100				欠席数 (臨地： 日、学内： 日、合計： 日)、遅刻 (回)、早退 (回)
指導教員 総合評価	印	臨地指導者サイン ()				

成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 評価表

実習期間： 年 月 日 ～ 月 日

学籍番号： 学生氏名：

項目	評価内容	配点	教員	臨地 指導者	自己 評点	自己評価の根拠（実習要項の実習目標に照らし合わせて目標が達成できたか評価する）
情報収集と看護上の問題の明確化	①患者の病態・治療が理解できる。	10				
	②患者の家族・職場・地域における役割を明らかにするとともに疾患を抱えることによって、これらにどのように影響を及ぼしているのか理解できる。	4				
	③患者の言動を観察することによって精神的側面を理解できる。	4				
	④看護に必要な情報をゴードンの11パターンを使って系統的に収集できる。	4				
	⑤患者のセルフケア能力を明らかにできる。	4				
	⑥患者の退院後を視野に入れた解釈・分析ができ、生活指導に繋げられる。	4				
	⑦相互のデータの関係性から患者の全体像をとらえ問題点を明らかにできる。	4				
	⑧患者とその家族の問題点を判断し、適切な看護問題を表現することができる。	4				
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。	4				
計画立案	①看護問題に基づき具体的に達成可能な看護目標を立案できる。	3				
	②科学的根拠に基づき患者の個性性を考慮した看護計画を立案できる。	3				
	③現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。	3				
看護の実践	①患者の安全と治療環境を維持した援助ができる。	3				
	②立案した計画に基づいて看護実践できる。	3				
	③患者の苦痛を軽減し、安楽が得られる看護が実践できる。	3				
	④家族に配慮しながら援助できる。	3				
	⑤在宅療養に向けADL拡大と自立への援助ができる。	3				
	⑥患者のセルフケア能力や病状・障害に応じ、チーム医療の役割や社会資源の活用が理解できる。	3				
	⑦患者が生活全般を自己管理できるように家族を含めての教育を計画し実施できる。	3				
評価	①毎日の経過記録のなかで評価ができる。	3				
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。	3				
	③患者が主体的に病気を管理できるような看護過程が展開できたか客観的に評価できる。	3				
倫理的配慮 医療チーム一員としての行動	①患者・家族のプライバシーを守り、気持ちや感情を理解できる。	2				
	②学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。	2				
	③カンファレンスに参画し、考えを発言できる。	2				
	④記録用紙は専門用語を用いて正確に記述し、期限を厳守して提出できる。	4				
	⑤患者・家族および医療者とのコミュニケーションを図れる。	2				
	⑥チーム医療の中における自己の役割を認識し、報告・連絡・相談ができる。	5				
	⑦自己の健康管理ができる。	2				
評点	総合評点	100				欠席数（臨地： 日、学内： 日、合計： 日）、遅刻（ 回）、早退（ 回）
指導教員 総合評価	臨地指導者サイン（ ）					